

ざいそう

道の駅

角屋 滋



「道の駅」と言えば、最近では皆さんかなりおなじみの施設となっていることと思います。

一般道路に高速道路のSA・PAの様な休憩施設（道の駅）が整備され始めて、もう17年ほどになります。

「道の駅」が最初に出来たのは、平成5年4月で、このとき全国で一斉に103ヶ所が認可されましたが、現在（平成22年8月9日）では、全国に、952ヶ所の駅が整備されています。

最近では、NHKの朝の連続ドラマ「ウエルかめ」にも「道の駅・美波」として登場し、地域の顔として、又観光の拠点として利用されている姿をご覧になられた方も多いことと思います。

「道の駅」とは、固苦しい言い方をすれば、「国土交通省（制度開始当時は建設省）により登録された、休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設」であり、第11次道路整備5カ年計画（平成5～9年）の施策として位置付けられ、積極的に推進されてきた事業であります。

この「道の駅」は、もう皆さんすでにご存じのとおり、高速道路のSA・PAの様に、一般道路において、24時間いつでも利用できる休憩所であり、一定数の駐車スペース、トイレ、電話、および情報提供などを備えた施設であります。

また多くの場合、道路や地域の情報を提供する案内人が置かれていたり、その地域の自主的な工夫がなされた特産物の販売所やレストランなどの施設が設けられ、多様なサービスが提供されている施設でもあります。

もう20年近く前（平成3年頃）の話ですが、私はこの「道の駅」の整備に関わる仕事に携わったことがあります。

モータリゼーションの進展に伴い、女性や高齢者ドライバーが増加し、高速道路には休憩所（SA・PA）があるのに、なぜ一般道路には休憩施設がないんだという声が高まって来たり、平成2年には「地域づくり交流会シンポジウム」が開催され、そのシンポジウムの中でも一般道路に休憩所（駅）があってもいいのではという提案がありました。

国としても当然以前から検討は行っていましたが、休憩所（駐車場やトイレなど）を整備した場合、高速道路の場合と異なり、その施設の維持・管理を誰が、どの様にして行うかが大きな課題でした。また、丁度そんな頃、道路上のゴミ処理の問題もありました。空

き缶や、ペットボトルなど、また時には家庭内のゴミを道路端（中央分離帯や路肩）に投げ捨てていく悪質なドライバー？が後を絶たず、道路管理者の頭の痛い問題でした。空き缶やペットボトルの管理は農林水産省の管轄であったため、国土交通省（当時は建設省）と農林水産省との共同調査としてゴミの処理対策、すなわちゴミを回収する方法・場所（現在の道の駅）の検討が同じ頃行われていました。これらの事情と、国の施策の後押しがあり、それがどんどん発展し、単なる休憩施設（駐車場、トイレそしてゴミの回収場）だけでなく、地域の情報や文化の発信場所、地場産業の直売所などが併設され、現在の道の駅としての整備が進められてきたわけです。

私はマイカーによるドライブが好きで、ここ10年くらいのうちで（自分の歳も顧みず？）ほぼ全国（北は青森県の竜飛岬から、南は鹿児島県の指宿まで）をマイカーで廻って来ました。その時非常に役に立ったのが「道の駅」であり、また楽しみ場所でもありました。ドライブと言えば、だいたいは一般道を走ることが多かったため、疲れたときの休憩所として、またその地方の名所・旧跡の情報入手、特産物やおみやげの物色などと、休憩もさることながら、地方の文化？を知ることも大きな楽しみになっていました。中には変わった道の駅もいろいろありました。温泉付きあり、宿泊施設あり、工芸品の試作工房などもあったりして、休憩施設であるとともに、レジャーの目的地になっているケースもありました。更に、災害時の避難場所に指定されている箇所もあり、かなり有効に活用されております。

ただ最近では、当初心配した問題も多少出てきております。当初施設整備を検討しているとき、この施設をどの様に管理するかが課題でした。24時間、無料で利用できるよう開放しているため、トイレがいたずらされたり、駐車場が夜間暴走族のたまり場所になったりして、周辺に迷惑をかけるケースも出てきております。また、利用者が少なく、廃止を余儀なくされた施設もあります。

今後、ますます女性や高齢者のドライバーが増加することと思われませんが、いつでも、どこでも安全で、快適なドライブが楽しめる為にも、又地域の発展や連携の手助けなどとして、「道の駅」が今後ますます整備され、ドライバーや地域の皆様方から愛される施設となることを期待しています。